

# SHARING104

## ガラケー喪失

スマホと通話用の端末を共用しているのがどうしても嫌でガラケーと2台持ちしています。

スマホは電池容量使い切ると便利な機能を全喪失ですし、迷惑SMSのリンクを開いてしまう事故も考えられます。

通話用としては折りたたみガラケーは顔への収まりが良いせいか通話明瞭度が高いようにおもいます。折りたたみガラケーはマイクとスピーカーの物理的距離も遠いので聞き取りやすい音質に調整しやすいのかもしれません。

その上、軽量コンパクトで100g以下なのでdocomo回線なら緊急連絡用としても携帯する価値があります。

木下@木下電機



ということで15年前以上の三洋電機製SA702iを使っていたのですが、流石にバッテリーがくたびれて来ました。電池が元気なうちは1週間ぐらい充電不要だったのがこのところ30時間持ちません、通話も長くなると悲鳴をあげます。

ここまで古いと流石にバッテリーも手にはらないので、他機種のマシなバッテリーを収めてみたのですが充電制御の違いなのかどうつなごうと本体に内蔵したままの充電ができません。

電池側の制御ICはもう絶版になったCARETTA CR6002Dで、特に端末側と通信しているわけではなさそうですね。充電できなかった理由は端子の電圧電流からCR6002の充電シーケンスが機能しているかをチェックしているのではないかと思います。

もちろん電池単体をCVCC電源で充電することは可能でしたので、改めて電池流用にチャレンジしてみようと思います。



## 格安スマホの流用

かくして通話端末が失われてしまったので、代用に2010年頃の格安スマホを確保しました。

### サイズ・重量

高さ：約104mm

幅：約54.8mm

厚さ：約13.5mm

重量：約100g

本体カバー：ブルー・ピンク・イエロー・ブラック



本体カバー 4色つき



## SHARING104

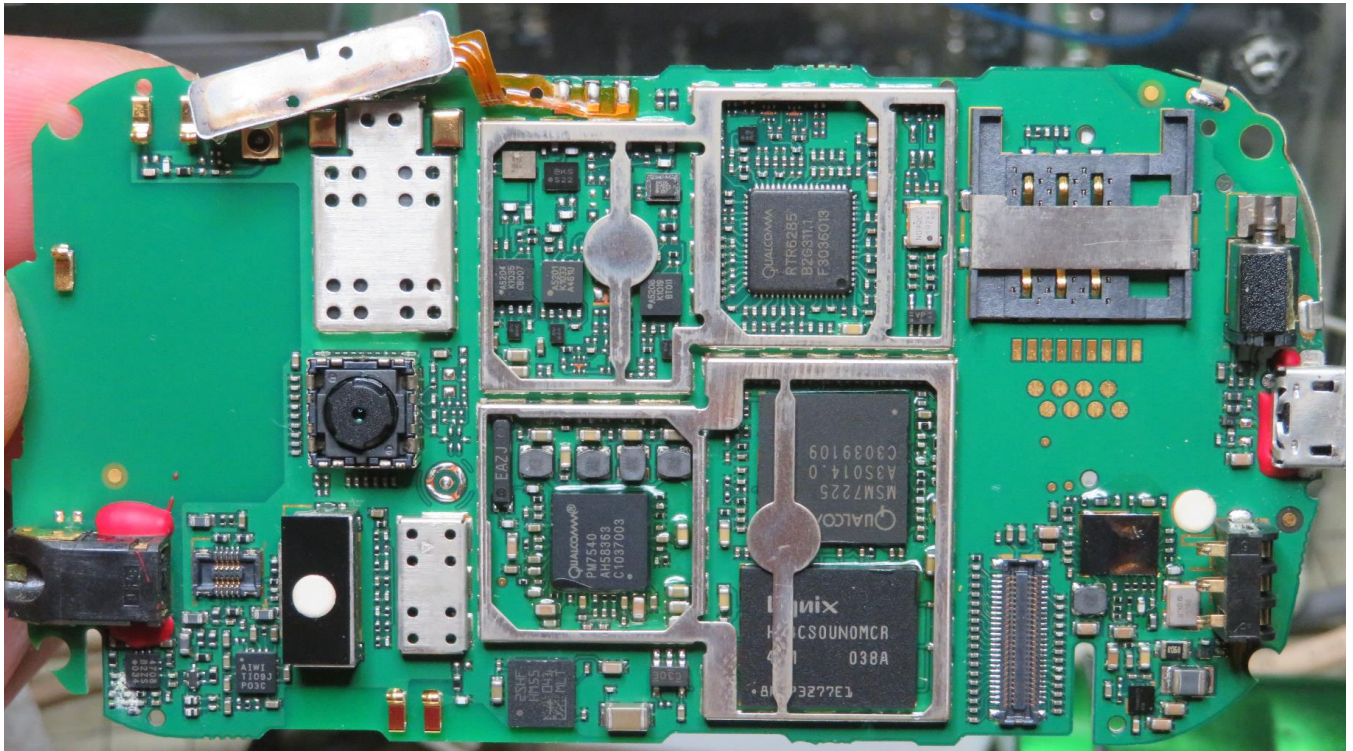
これは Huawei の U8150 日本では日本通信が IDEOS という名前で当時 200 日分 SIM 付けて 2 万円ほどでした。メルカリあたりで 1,000 円程も出すときれいな機体が手に入ります。

OS が Android2.2 Froyo(フローズンヨーグルト)なのでスマホとしてはすでに価値がなくなっています。なぜなら大半のアプリケーションがこの OS バージョンに対応していません。CPU も Snapdragon の第一世代で ARM11 1 コア 528MHz と最近のアプリケーションは荷が重いのは確かです。

しかし、これをインターネットに接続せず通話と SMS のみに使用するならバッテリーが大きく待受時間が長いうえ、軽く小さい。プリインストールで“著作権管理機能”未搭載なプレイヤーや FM ラジオが！ってこんなところにおかないと本末転倒になりますね。

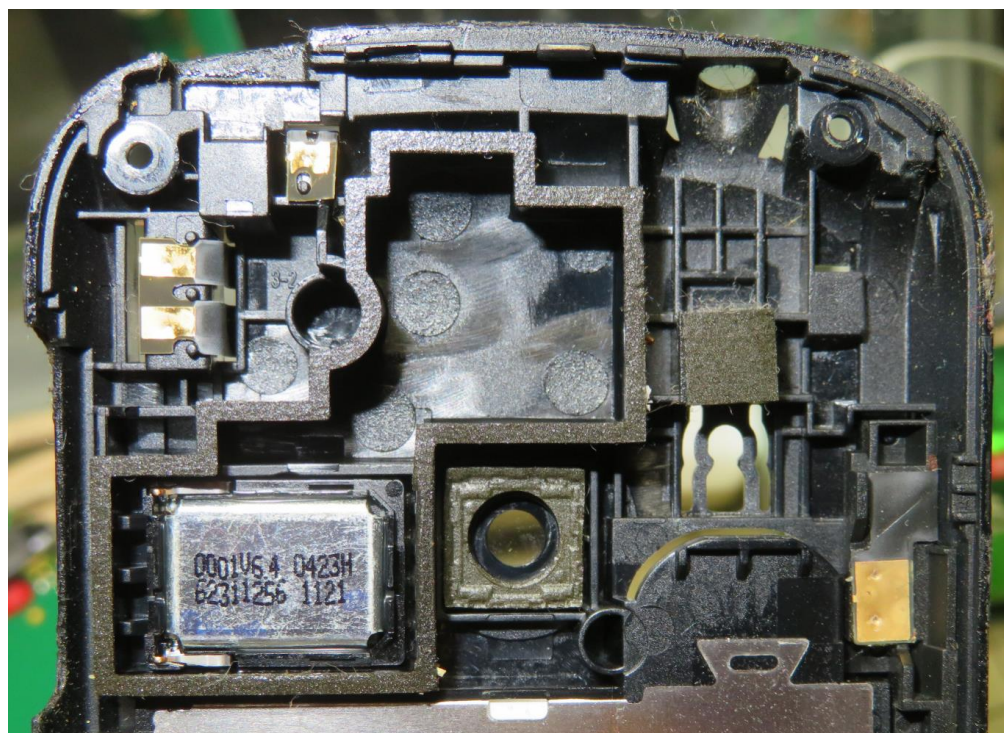
### 分解してみた

今回入手した IDEOS は 2 台めなので、表皮が加水分解でベトベトになった初代機を分解してみました。



この頃すでに Qualcomm のチップセットでとてもシンプルに設計されていて、これぐらいなら基板もかけそう。左上のカバーは class-D のオーディオアンプ、右に 3G で 3 バンド分の AVAGO のアンプとフィルター、次が Qualcomm の通信チップ  
下の段は左からミニジャックコネクタと周辺にマイクアンプと FM ラジオ、SD カードのコネクタトップに丸い水検知シール  
カバーはブルーーツース、ケース左が Qualcomm の電源その上にインダクタが 4 個見えます。  
CPU の MSM7225 の下にはハイニックスのメモリー 右端の方には LCD へのコネクタがあり、WiFi チップが乗っかってます。電話として作られている証拠にバイブレーターが右上に載っていますね。バイブレーターの右上に見えるのが WiFi のアンテナのようです。





裏に回って、左下シルバーがスピーカーです。四角い振動板でストロークが大きいので中低音ぐらいまで良く鳴ります。スピーカーボックスの容量をしっかりと稼いでいますね。

左上の3接点が3Gのアンテナ、右下の接点がブルーツースのアンテナのようです。



その反対側にはフレキシブル基板アンテナになっています。この機体は昔流行ったゴム表皮が溶けてベトベトになってしまいました。